



第7回目のスマイル通信です。8月7日は、はなの日です。

スマイル通信3号にも書きましたが、いつもは存在感がない「鼻」ですが、風邪をひいたり、アレルギーなどで鼻にトラブルがあると、その有り難さを、再確認する鼻の話を。

鼻の働きは主に、①においを感じる働き(きゅう覚)、②呼吸に関連して、肺から酸素を取り込みやすくするために、空気を加温加湿し、空気中の塵や病原体をくしゃみ、鼻みず、鼻づまりで体内に入れない様にする働き(防御)、③声を出すときに、音声に変化をあたえて言葉を作ったり、声をひびかせる働き、などがあります。③は、かぜをひくと、鼻声になることで自覚しますね、。

鼻の病気でよく聞く名前に、**鼻炎(びえん)**と、**副鼻腔炎(ふくびくうえん)**があります(図)。



鼻炎は、炎症のために、鼻の粘膜が、はれた状態になります。症状は、くしゃみ・鼻みず・鼻づまりなどで、色々な原因物質によって粘膜が刺激されたことによって起こります。

アレルギー性鼻炎:ハウスダストやダニ、花粉(すぎ、ひのき、ぶたくさ、など)などが原因で起こります。小学生以下の患者さんも増えてきました。

急性鼻炎:ウイルスや細菌などが原因で起こります。いわゆる「鼻かぜ」です。

慢性鼻炎・肥厚性鼻炎:急性鼻炎をくり返したり、長引いたりした場合に起こります。

副鼻腔炎は、ウイルスや細菌などの病原体が副鼻腔の粘膜にすみついて炎症をおこし、うみなどが副鼻腔の中にたまる病気です。ちくのう症って言葉が知られてます。

急性副鼻腔炎:症状がおこって約1か月以内におさまるのが急性副鼻腔炎です。ねばり気のある鼻みずがでたり、鼻づまりやほほが痛くなることがあります。

慢性副鼻腔炎:3か月以上症状が続くものが慢性副鼻腔炎です。長い間、ねばり気のある鼻みずがでたり、頭が痛くなる場合もあります。またポリープができると、鼻づまりもなおらなくなります。

